



はじめに

ため池は亀山市におよそ240箇所あり、古くから農業用水の貯水池として利用されてきましたが、その多くは**築造から100年以上が経過し、老朽化が進行**しています。

さらに近年多発している局地的な**大雨や地震などの自然災害が発生すると、ため池が決壊**し、生命や財産などに大きな被害をもたらす危険性があります。

このため、ため池が決壊した場合に想定される浸水被害の範囲や避難場所などの情報を分かりやすく地域住民の方々に提供することを目的として「ため池ハザードマップ」を作成しました。

この「ため池ハザードマップ」により、**浸水想定区域や避難場所を事前に把握**し、安全な避難行動にご活用いただくとともに、日ごろの防災意識の向上や地域の防災情報の共有などにお役立てください。



こんな場合にため池決壊の危険があります!

地震発生直後

大きな地震が発生すると、堤防に亀裂や地すべりが発生したり、地盤の液状化現象が起きるため、堤防決壊の危険性が高くなります。



大雨が長く続いた時

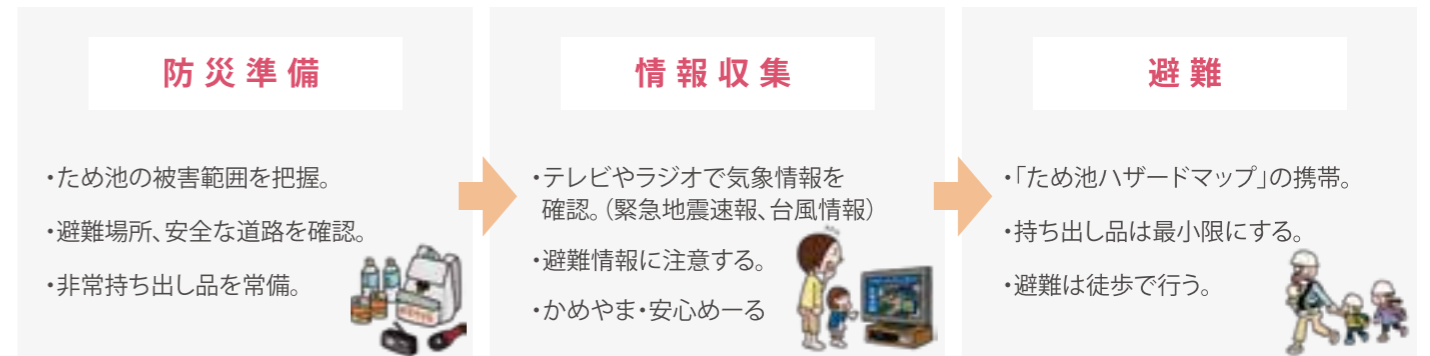
ため池の洪水吐(許容量を超えた貯水を放水する施設)の能力には限界があり、ゲリラ豪雨などの局地的な大雨が長く続いた場合、ため池の水位が上昇し、堤防を乗り越えた水の勢いによって堤防が浸食され、決壊につながる危険性があります。



ため池は地震でも大雨でも危険な状態になる可能性があります!
河川の近くに住んでいない方もため池にはご注意ください!

ため池が決壊する前に避難しましょう

直ちにため池の決壊を知らせることはできません。大切なことはため池が決壊する前に避難することです。日頃から防災に関心を持ち、いざという時のために準備をすることが必要です。



● 防災のための日常管理 —ため池管理者のみなさんへ—

◆ため池を適切に管理する

ため池堤体においては、定期的に草刈作業を行うとともに、堤体からの漏水、堤体の陥没、クラックの発生がないかを点検し、異常を発見した時は市へ報告してください。

◆洪水吐の土砂・ごみ等を取り除く・土のうを置かない

洪水吐に堆積した土砂やごみ等は、流水断面を阻害し、適切な機能を発揮することができません。また、ため池の貯水を増やすために洪水吐に土のうを積む様子がよく見られますが、これも危険ですので止めてください。(図1)

◆地震後や大雨の前にため池の水位を下げる

地震により発生した堤防の亀裂に浸水し、2~3日後に堤防が決壊する危険性があることが過去の震災調査で判明しています。このため地震発生後、安全を確保した上でため池の水位を2m程度下げてください。また、大雨が予想される場合についても水位を下げてください。

● ため池ハザードマップの配布をしています

ため池の決壊についてより詳しい内容はP47以降をご覧ください。また、亀山市では市内で決壊時に被害が想定されるため池について、「ため池ハザードマップ」を作成し、配布しています。

ため池ハザードマップ(亀山市ホームページ)
URL:<https://www.city.kameyama.mie.jp/docs/2018052800040/>



←QRコードはこちら



図1 土のうによる洪水吐のかさ上げは、ため池機能を阻害するため危険です。